

## 令和6年度 水稲作柄現地調査報告

本年は8月26日から28日にかけて2泊3日の行程で、主な水稲作付地帯を2班(道南班、道央・道北班)に分け、水稲作柄現地調査を実施しました。

また昨年に引き続き、令和5年度北海道優良米出荷共励会において最優秀賞を受賞された方(団体)のほ場視察も併せて行っています。

調査概要については、参加いただいた北海道農政部技術普及課 李家上席普及指導員様を始め、技術普及課水稲担当の皆様がまとめられましたので、ここにその内容を報告いたします。

ご同行並びに調査いただきました李家様、石岡様、内田様、有田様、またお忙しい中、現地で対応いただいた各農業改良普及センター・道総研農業試験場ほか関係機関の皆様に厚くお礼申し上げます。

令和6年9月9日

一般社団法人 北海道農産協会

### ■令和6年度 水稲作柄現地調査の概要

#### 道南班作柄報告

##### 【石狩地区(当別町)】

- は種作業は平年並に行われ、苗質は平年並であった。移植作業は順調に進んだ。
- 移植後は低温・日照不足に強風が加わり、分けつの発生が遅れたものの、6月中旬からの高温により初期莖数は平年並を確保できた。
- 「ななつぼし」の出穂期は7月24日(平年比4日早い)となり、穂の揃いも平

年並で、現在の登熟は良好である。

- 穂数並びに一穂粒数は平年よりやや少ないものの、稲体は中庸な大きさと十分な粒数を確保している。また、不稔は少ない傾向にある。
- 大雨の影響で、一部、倒伏が散見される。
- 収穫作業は9月10日頃から始まる見込みである。



当別町 優良品種決定現地試験地(以下優決ほ場)にて



登熟は良好に進んでいる模様

### 【後志地区(蘭越町)】

- は種作業は平年並に行われ、苗質は平年並であった。移植作業も平年並に推移。
- 移植後の低温・日照不足により、分けつの発生は遅れたが、6月中旬からの高温により初期茎数は平年並に回復した。
- 「ななつぼし」は出穂期が7月23日（平年比5日早い）であった。
- 穂揃い性は良く、現在の登熟も良好である。
- 穂数及び一穂粒数とも平年よりやや多い傾向であり、不稔の発生は少ない。
- 大雨の影響で、一部乾きの悪いほ場で倒伏が見られる。
- 収穫作業は8月30日頃から始まる見込みである。

籾も大きく、熟色も  
きれいに感じられる



蘭越町 優決ほ場  
(隣接水田では収穫が始まっている)

### 【檜山北部地区(今金町)】

- は種作業は平年並に行われ、苗質は平年並であった。移植作業も順調に進んだ。
- 移植後の低温・日照不足により、分けつの発生は遅れたが、6月中旬からの高温により初期莖数は平年並に回復した。
- 「ななつぼし」は出穂期が7月23日（平年比5日早い）であった。
- 穂の揃いは良く稔実歩合はやや高め、現在の登熟は良好である。
- 穂数は平年よりやや少ないものの、一穂籾数は多いため、平年並の籾数は確保できている。
- 大雨の影響で、一部軟弱に生育した稲や乾きの悪いほ場では倒伏が見られる。
- 収穫作業は9月10日頃から始まる見込みである。



開田普及職員(左端)より作況説明を受ける



今金町 優決ほ場の新品種「そらきりり」



### 【檜山南部地区(厚沢部町)】

- は種作業は平年並に行われ、苗質は平年並であった。
- 移植作業も平年並であったが、移植後の低温・日照不足により分けつの発生は遅れ、初期茎数は平年よりやや少なくなった。
- 「ふっくりんこ」の出穂期は7月27日（平年比4日早い）であった。
- 穂の揃いは平年並だが、不稔は少な目で、現在の登熟は良好である。
- 一穂粒数は平年より多いが、穂数は少ない傾向にあるため、総粒数は平年よりやや少ないと見込まれる。
- 大雨の影響で、一部軟弱に生育した稲や乾きの悪いほ場では倒伏が見られる。
- 収穫作業は9月10日頃から始まる見込みである。



地区内の作況を説明する狩野次長（左端）



厚沢部町 優決ほ場内には倒伏に強い系統も供試中

### 【渡島地区(道南農試)】

- は種作業は平年並に行われ、苗質は平年並であった。
- 移植作業は順調に進み、移植後の生育も植え傷みは少なく、初期茎数は平年並を確保した。
- 出穂期は「ふっくりんこ」で7月22日（平年比4日早い）、「ななつぼし」は

7月20日（平年比4日早い）であった。

- 穂数は平年より多く、一穂粒数も平年並以上の確保が見込まれている。

- 8月30日頃から早い品種で収穫を予定している。



作況を説明する丸田研究職員（右から2人目）

### 【渡島地区(七飯町)】

- は種作業は平年並に行われ、苗質は平年並であった。

- 移植作業は平年並に進み、移植後の生育も植え傷みは少なく、初期茎数は平年並を確保した。

- 「ふっくりんこ」の出穂期は7月28日（平年比3日早い）であった。

- 穂揃い性並びに登熟とも良好である。

- 穂数、一穂粒数とも平年以上を確保しており、稔実歩合も高いため総粒数は平年を上回る見込みである。

- 大雨の影響で一部、倒伏が見られる。

- 収穫作業は早いところで9月5日頃から始まる見込みである。



七飯町 優決ほ場にて

### 【胆振西部地区（壮瞥町\_R5年優良米共励会最優秀賞受賞\_石田宅ほ場）】

- は種作業は平年並に行われ、苗質は平年並であった。

- 移植作業は順調に進み、植え傷みもなく初期茎数は平年並を確保した。



- 穂揃いも良く、登熟も良好である。
- 穂数、一穂粒数とも平年以上で、不稔も少ない。

(石田氏の栽培状況)

- 高密短の導入により、苗の老化が回避され初期生育が向上し、収量・品質が安定した。



令和5年度共励会最優秀賞受賞の石田氏より概要説明と意見交換を行う（中央が石田氏）

- また、他作物との労働競合が解消され、園芸作物との複合化が進められている。

### 【胆振東部地区（厚真町）】

- は種作業は平年並に行われ、苗質は平年並であった。
- 移植作業は平年並に進み、植え傷みが少なく、初期茎数は平年並を確保した。
- 「ななつぼし」の出穂期は7月24日（平年比6日早い）であった。
- 穂揃いは良く、稔実歩合は高めが見込まれ、現在の登熟は良好である。
- 一穂粒数は平年並で、穂数は平年以上を確保している。
- 大雨の影響で、一部倒伏が見られる。
- 収穫作業は9月10日頃から始まる見込みである。



厚真町 優決ほ場にて



均一な生育で登熟も揃っている（厚真町近辺）

## 【胆振東部地区（むかわ町穂別\_R5年優良米共励会最優秀賞受賞\_石崎宅ほ場）】

- は種作業は平年並に行われ、苗質は平年並であった。
- 移植作業は順調に進み、植え傷みもなく初期茎数は平年並を確保した。
- 穂も揃い不稔は少なく、現在の登熟は良好である。
- 収穫作業は9月5日頃から始める予定である。

(石崎氏の栽培状況)

- 6戸で稚苗の共同育苗を実施。稚苗によりコスト削減と移植作業の省力化を進め、水田面積の維持と園芸作物との複合化を図っている。
- 徹底した乾田化対策や地力維持のための秋すき込み、ケイ酸質肥料の必要量の投入。



令和5年度共励会最優秀賞受賞の石崎氏より概要説明と意見交換を行う（右端が石崎氏）



登熟良好な「ゆめぴりか」  
（「ゆめぴりかの匠」として7年連続表彰も受けている）

## 【空知中央地区(中央農試水田農業部)】

- は種・移植作業とも平年並に実施され、苗質は平年並であった
- 移植後の低温・日照不足に強風が加わり、分けつの発生は遅れたが、6月中旬からの高温により回復し、7月20日時点の茎数は平年を上回った。
- 「ななつぼし」の出穂期は7月23日（平年比2日早い）であった。
- 穂揃い性は平年並で、現在の登熟は良好である。



・不稔は少なく、莖数確保は順調であったが、高位分げつが無効化したため、穂数は平年よりやや少なくなった。穂長は平年並である。



中央農試水田農業部 作況ほ場（岩見沢市）



今年の手ごたえを語る山下主査（中央）

## 道央・道北班作柄報告

### 【上川南部地区(中富良野町)】

- ・は種作業は平年並も好天により苗の生育は早まり、移植作業は2日早くなった。
- ・移植後は低温・寡照のため一時生育は停滞したが、その後初期莖数は平年並まで回復した。
- ・出穂期は「ななつぼし」で7月24日（平年比2日早い）であった。
- ・不稔は少なく穂揃い性も良好で、現在の登熟も良好である。
- ・一穂粒数は少ないものの、穂数が多く稔実粒数は平年より多めとなった。
- ・一部のほ場に倒伏が見られる。
- ・収穫作業は昨年ほど早くはならないが、平年より早まる見込みである。



中富良野町 優決ほ場にて



## 【上川中央地区(東川町、旭川市)】

- は種及び移植作業は平年より早まった。苗質は平年並となった。
- 移植作業は順調に推移したものの、その後の低温・寡照により生育は停滞し、初期莖数は平年より少なくなった。
- 「ななつぼし」の出穂期は、東川町で7月23日（平年比2日早い）となり、旭川市では7月22日（平年比1日早い）となった。
- 分けつ期後半から莖数が急増したため、遅れ穂が多くなり穂揃い性はやや悪くなったが、現在の登熟は良好である。
- 穂数は少なめだが、一穂籾数は多く不稔も少なかったため、稔実籾数は平年並を確保した。
- 復元田、直播ほ場など一部に倒伏が見られる。
- 収穫作業は昨年ほど早くはならないが、平年より早まる見込みである。



東川町 優決ほ場にて



旭川市永山地区 優決ほ場にて



登熟良好で収穫目前（旭川市永山地区）

【上川中央地区（上川町\_R5 年優良米共励会最優秀賞受賞  
上川町もち米団地組合 溝口組合長宅ほ場）】

（もち米団地組合の栽培状況）

- ・ 厳しい気象・土壌条件のため、乾田化に向けて融雪材の適期散布、秋春の表面水排除の徹底、ケイ酸資材の投入を毎年実施している。
- ・ 冷害リスクの回避に向け、成苗ポットを用い危険期の水管理を適切に行いながら 200ha にわたる作付面積で、一等米出荷 100%を継続している。



令和5年度共励会最優秀賞受賞の上川町もち米生産団地組合 溝口組合長より概要説明と意見交換を行う（左から2人目が溝口氏）

【上川中央地区(上川農試)】

- ・ は種作業を平年より 4 日遅くしたが、苗の生育が進み、移植は平年より 1 日早まった。苗質は平年並。
- ・ 移植作業は順調に進んだが、低温・寡照により生育は停滞し初期莖数は平年より少なくなった。
- ・ その後生育はやや回復したものの、莖数は平年より少なめで推移し、穂数も少なくなった。現在の登熟は順調に進んでいる。
- ・ 穂数は少ないものの、一穂粒数が多く稔実歩合は平年並となったため、稔実粒数は平年並となった。多肥区を中心に倒伏が見られている。



上川農試 優決ほ場（比布町）



## 【上川北部地区(名寄市、士別市)】

- は種作業は平年並で、苗の生育はやや旺盛であった。また移植作業は平年並～やや早まり、順調に進んだ。
- 移植後は低温・寡照により生育が停滞し、初期莖数は平年より少なくなった。
- 「ななつぼし」の出穂期は、士別地区で7月24日（平年比2日早い）となり、名寄地区の「はくちょうもち」では7月25日（平年比2日早い）であった。
- 分けつ期後半から莖数が急増したため、遅れ穂が多くなり穂揃い性はやや低下したが、現在の登熟は良好である。
- 穂数は少ないものの、一穂粒数が多く不稔も少ないため、稔実粒数は平年並となった。また、一部のほ場では倒伏が見られる。
- 収穫について昨年ほど早くはならないが、平年より早まる見通しである。



佐竹専門主任より地区内の作況説明を受ける  
(士別市 優決ほ場)



名寄市 作況ほ「はくちょうもち」

## 【留萌地区(留萌市)】

- は種作業は平年並に行われ、苗質は平年並であった。移植作業も平年並に推移。
- 移植後の低温・日照不足により、分けつの発生が遅れ、初期莖数は平年より少

なかった。

- ・「ななつぼし」の出穂期は7月25日（平年比1日早い）であった。また、穂揃い日数は平年よりやや長くなったものの、現在の登熟は良好である。

- ・穂数が平年より少なく稔実歩合も平年よりやや低めとなったものの、一穂粒数が多いため、稔実粒数は平年を上回った。

- ・収穫作業は平年並からやや早く始まる見通しである。



留萌市 優決ほ場にて



地区の作況状況を説明する神野係長

### 【空知北部地区(深川市)】

- ・は種作業は平年並に行われ、苗質は平年並であった。移植作業も平年並に推移。

- ・移植後の低温・日照不足により、分けつの発生が遅れ、初期茎数は平年より少なかった。

- ・「ななつぼし」の出穂期は7月21日（平年比4日早い）であった。また、穂揃い日数は平年並で、現在の登熟は良好である。

- ・稔実歩合は平年よりやや低いものの、穂数は平年並となり一穂粒数が多いため、稔

- 実粒数は平年より多めとなった。また、一部のほ場では倒伏が見られる。

- ・収穫作業は平年よりやや早く始まる見込みである。



深川市 優決ほ場にて



### 【空知中部地区(新十津川町・美唄市)】

- は種作業は平年並に行われ、苗質は平年並であった。移植作業も平年並に推移。
- 移植後の低温・日照不足により、分けつの発生が遅れ、初期茎数は平年より少なかった。
- 「ななつぼし」の出穂期は新十津川町で7月22日（平年比2日早い）、美唄市で7月24日（平年比3日早い）であった。また、穂揃い日数は平年並で、現在の登熟は良好である。
- 穂数並びに一穂粒数は平年並からやや多く、稔実歩合は平年並で、稔実粒数も平年並からやや多くなった。
- 倒伏ほ場が散見され、疑似紋枯症によるものが多いとのこと。
- 収穫作業は平年よりやや早く始まる見込みである。



新十津川町 優決ほ場にて



美唄市 優決ほ場にて

### 【空知南部地区(長沼町)】

- は種作業は平年並に行われ、苗質は平年並であった。移植作業も平年並に推移。
- 移植後の低温・日照不足により、分けつの発生が遅れ、初期茎数は平年より少なかった。

・「ななつぼし」の出穂期は7月24日（平年比4日早い）であった。また、穂揃い日数は平年並で、現在の登熟は良好である。

・一穂籾数並びに稔実歩合は平年並となったが、穂数は平年並からやや多く、稔実籾数は平年よりやや多めに確保した。

・収穫作業は平年よりやや早く始まる見込みである。



長沼町 優決ほ場にて

### (長沼町\_R5年優良米共励会最優秀賞受賞\_柴田宅ほ場)

(柴田氏の栽培状況)

・輪作体系に田畑輪換を取り入れ、復田時に省力化・低コスト化を目的に「成苗ポット苗の疎植栽培」を実施している。

・疎植栽培に適した品種や施肥量・施肥法を駆使し、倒伏や品質低下を回避。

・新たな設備投資をせずに、規模拡大や労働力の有効活用が図られ、収益の維持向上にも貢献している。

・本年の疎植「そらきらり」の収量は単収700kgを期待できる仕上がりに。



令和5年度共励会最優秀賞受賞の柴田氏より疎植栽培状況説明（左より2人目）



新品種「そらきらり」は多収が期待されている



## 【オホーツク地区(北見市)】(別日程にて追加調査)

- は種作業は平年並に行われ、苗質は平年並であった。移植作業も平年並に推移。
- 移植後の低温・日照不足により、分けつの発生が遅れ、初期茎数は平年より少なかった。
- 「きたゆきもち」の出穂期は7月25日(平年比2日早い)であった。
- 幼穂形成期以降、生育が旺盛になったため、穂揃い性はやや低下したが、現在の登熟は良好である。
- 穂数は平年並だが、一穂粒数は平年よりやや多く、不稔の発生も平年並のため、稔実粒数は平年よりやや多くなった。
- 収穫作業は平年よりやや早く始まる見込みである。



北見市 作況調査ほ場



北見市 優決ほ場

## ■総合検討会における協議内容について(追加情報を含む)

両班による調査終了後、道農政部（技術普及課道南農試駐在）李家上席普及指導員を座長とする総合検討会を開催し、本調査のまとめと課題整理を行いました。

### 1 気象経過と水稻の生育

#### (1) 育苗期

- ・3月前半の低温傾向と降雪量の増加により、融雪期は地域ごとにややバラつきが見られました。このため融雪期は、平年よりはやや早いものの、昨年と比べると大幅に遅れました。

- ・融雪後は記録的な気温の上昇と多照により、ほ場の乾きは一気に進みました。

- ・は種時期は気温も高く、は種作業は平年並で、出芽もほぼ平年並となりました。

- ・育苗前半は一時寡照の時期もありましたが、生育への影響は少なく、育苗期間全般にわたり生育は順調で、移植時の苗質はやや徒長気味の苗が目立ちました。

また、一部では出芽の不揃いや高温障害が散見されました。

#### (2) 移植・活着期

- ・移植作業は平年並に行われました。しかし、5月下旬からの低温寡照や強風の影響で、葉先枯れなどの植傷みや活着不良、葉の退色も見られ、生育の停滞したほ場が多く見られました。特に育苗時に徒長・老化気味の苗では影響が大きくなりました。

- ・一方、早めに移植された苗(5月20日以前)では、活着良好で生育停滞期間も短く、順調に経過しました。

#### (3) 分けつ期

6月上旬頃まで続いた天候不順により、生育の回復は6月2半旬以降となりました。



した。特に分けつの開始が、葉数進度の回復に比べ遅れているため、中旬時点での莖数確保は平年に比べ劣っている地域が多く見受けられました。

#### (4) 幼穂形成期～冷害危険期

生育は良好に推移し、幼穂形成期は平年からやや早まりました。6月中盤以降の高温傾向は7月に入ってから続き、10日頃にかけての曇雨天では一時日照が少なくなったものの、前歴・冷害危険期間と通じて最低気温は高く、不稔の多発を回避できました。

#### (5) 出穂期から登熟期

・7月の高温継続により分けつの発生は旺盛で、7月15日時点の莖数は656本/m<sup>2</sup>と、平年対比で2%多くなりました。幼穂形成期前に確保した分けつが主であることと、その後の高温により生育は順調であったことから、穂揃性はやや良好の地帯が多くなりました。

・その後も高温状態が継続したため、生育は早まり、全道平均の出穂期は7月23日となり、平年対比で3日早くなりました。また、同時に開花並びに初期登熟も順調に進みました。しかし、8月12日の台風5号の接近に伴う降雨により、各地ではなびきや倒伏が発生し始めました。

・8月15日時点の莖数は全道平均で598本/m<sup>2</sup>と平年並になったものの、地域差も目立ちます。いつもの年より早く確保した分けつがメインであり、その後の高温により幼穂の発育も順調であったことから、一穂の籾数が多めに着生し、平年並以上の稔実籾数が確保されたと思われ、千粒重の増加も期待されます。

これらは各農業改良普及センターで行われます「作況ほにおける収量構成・決定要素調査」で次第に明らかになってくると思われま。

(6) 成熟期の見込み（岩見沢アメダス値）

・ 出穂期が7月22日の場合、9月2日頃に積算気温が950℃に達し（出穂からの到達日数は42日）で平年より7日程度早まる見込みです

年次	出穂期	積算気温950℃	
		到達日	到達日数
R06	7月22日	9月2日	42
平年	7月25日	9月9日	46
R05	7月22日	8月28日	37
R04	7月26日	9月9日	45

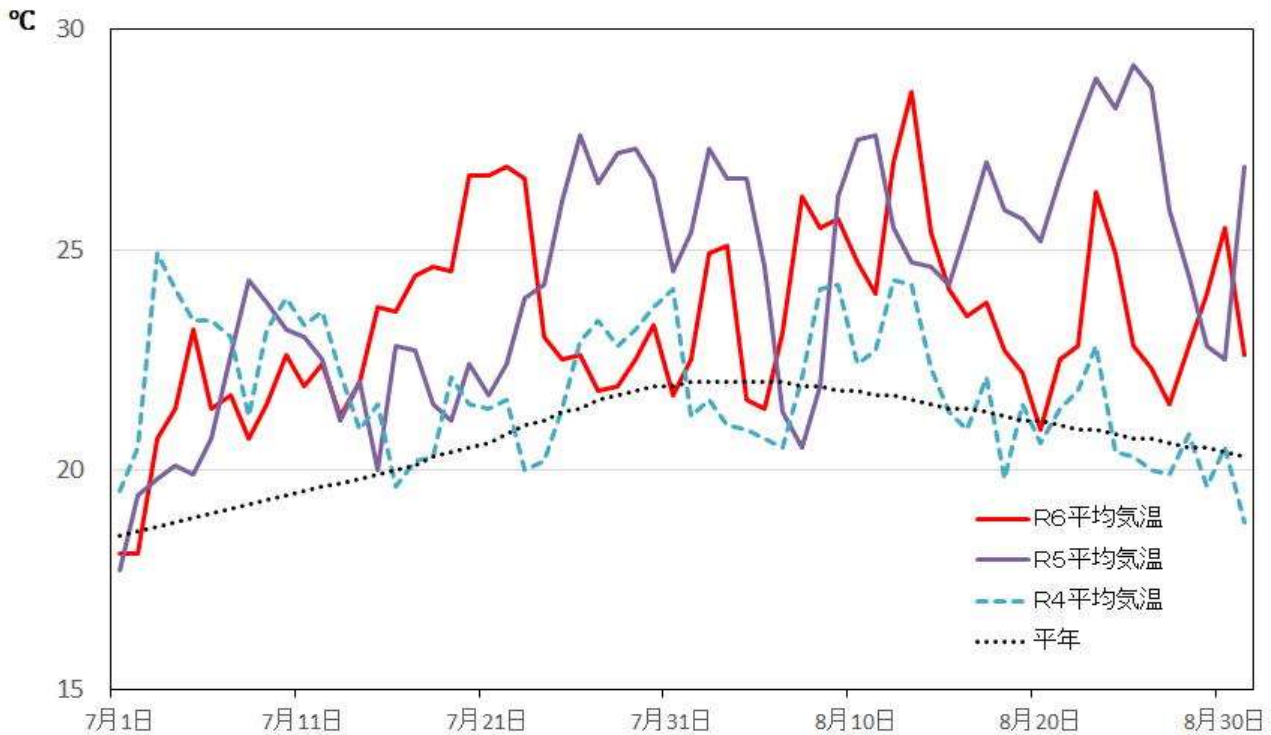
※各年出穂期は空知地区の加重平均値

※R06年の積算気温は、8/22以降平年値を使用

・ 今ところ成熟期の予想は、令和5年に比べると5日程度遅くなる見込みです。

2 産米の品質について（高温による登熟障害の可能性について）

(1) 令和4年、5年、6年、暑さの比較（岩見沢アメダス値）



ア. 気温について出穂期（7/23）前は、令和5年より高い状態が続いていましたが、出穂後は令和4年並で経過しました。

イ. 8月中旬前後に、令和5年を上回る日もありましたが、8月下旬は一度、令和4年並まで下がりました。

(2) 胴割粒の発生について ～登熟初期の高温により多発する～



ア. 出穂期後1～10日の平均日最高気温が高いほど、胴割率は高い傾向を示します。また、同一条件においても品種間で差が見られる特徴があります。

イ. 具体的には、出穂期後1～10日の平均日最高気温が30℃を超えると、胴割率は高くなります（令和3年度農政部調べ）。

出穂期後10日間の最高気温年次比較（岩見沢アメダス平均値）

年次	出穂期	出穂後1～10日の最高気温の平均(℃)
R06	7月23日	26.95
R05	7月23日	30.68
R03	7月23日	32.56

※各年出穂期は全道平均値

ウ. 令和3年は出穂後の最高気温が32.6℃と非常に高く、胴割粒が多発しましたが、令和6年は27℃程度と、発生リスクは低いと考えられます。

### (3) 白未熟粒の発生について

ア. 出穂後20日間の日平均気温が26℃前後を超えると、未熟粒のうち玄米の一部が白濁した「白未熟粒」が急速に増加し始めます。

出穂期後20日間の平均気温年次比較（岩見沢アメダス平均値）

年次	出穂期	出穂後20日間の平均気温(℃)
R06	7月23日	23.55
R05	7月23日	25.55

※各年出穂期は全道平均値

イ. 令和5年は出穂後20日間の日平均気温が25.6℃と高く、白未熟粒が多発しましたが、令和6年は23.6℃と2℃程度低く、発生リスクはある程度回避しているものと考えられます。

### (4) 低タンパク米の出荷率について

ア. 令和5年の粳数レベルはほぼ適正でしたが、高温条件により登熟が悪化し、

高タンパク化につながりました。

イ. 登熟期間の平均気温は、21.4℃以上になると、平均気温が高いほど登熟の効率が低下します。そして、登熟歩合の低下は窒素玄米生産効率の低下をもたらす、タンパク質含有率が高くなると推定されています。

出穂期後 40 日間の平均気温年次比較（岩見沢アメダス平均値）

年次	出穂期	出穂後40日間の平均気温(℃)
R06	7月23日	22.78
R05	7月23日	25.76

※各年出穂期は全道平均値

※R06年の平均気温は、8/22以降平年値を使用

ウ. 令和5年は出穂後 40 日間の日平均気温が 25.8℃と非常に高く、低タンパク米出荷率は低迷しました。しかし、令和6年は 23℃程度であり、そのリスクはある程度回避しているものと考えられます。

### 3 病害虫の発生状況

#### (1) いもち病

ア. 道病害虫防除所より 7 月に注意報が出せれました。

イ. その後の公表では、発生量が「やや多」となっています。

ウ. 予察田の「きらら 397」における葉いもちの初発期は、岩見沢市で7月 16 日（平年：7月 20 日）、比布町では7月 10 日（平年：7月 14 日）、北斗市で7月5日（平年：7月 12 日）と平年より早くなりました。

エ. ただし、適切な防除対策の実践により、実害はほとんど見られませんでした。

#### (2) アカヒゲホソミドリカスミカメ

ア. 道病害虫防除所より 7 月に注意報が出されました。

イ. 翌月の公表では、発生量が「やや多」となっています。



ウ. 一般田における7月6半旬のすくい取り調査による「ななつぼし」の追加防除の基準である捕獲数1頭以上となった水田は、全72調査地点のうち、計27地点となっており、多発地点では、斑点米が発生する心配があります。

エ. 玄米による適期判定時には、斑点米発生の有無についても確認して下さい。

#### 4 今後の重点対策

(1) 整粒歩合を高めるため、5つの重点項目に取り組みます。

ア. 成熟期が近づいたら、こまめに試し刈りした上、丁寧に玄米判定を実施して収穫適期を正確に判断する。

イ. 刈り遅れによる品質低下（茶米、サビ米、胴割粒など）を招かないよう適期に収穫する。

ウ. 品質向上のため、倒伏が発生しているほ場、白未熟粒、胴割粒の混入が見込まれるほ場、いもち病被害が大きいほ場等は別収穫を行う。

エ. 二段乾燥と丁寧な調製を行い、胴割粒の発生を防止する。

オ. 異品種混入を防止するため、作業場や機械の清掃を行うとともに、計画的に作業を進める。

(2) 倒伏・病害発生ほ場における収穫作業のポイント

ア. 倒伏した部分は、「追い刈り」でコンバインの作業速度を落として丁寧に刈り取る。また、倒伏した部分の粃と通常の粃を一緒にすると、品質低下を招くおそれがあるため別収穫とする。同様にいもち病等の被害部分も別収穫し、品質の劣った米が混じらないようにする。

イ. 倒伏面積が大きいほ場では、重なり合った部分は乾きにくく、粃水分も高いため、収穫乾燥作業に時間を要する。また、倒伏部分は登熟も緩慢となり品質

の低下が見込まれるため、その点を留意して作業を行う。

### (3) 胴割粒の発生防止対策

ア. 発生要因として、刈り遅れによる主稈の水分低下があげられます。収穫期の降雨や籾水分が25%以下になると発生のリスクが高まるため、適期収穫に努めます。特に遅れ穂の登熟待ちは発生を助長するため、こまめな玄米判定による適期収穫を励行する必要があります。

イ. また、乾燥初期の水分が高いうちに急激に乾燥させることにより発生が助長されることがあげられます。このため、穀温はできるだけ低くすることが望ましく、乾燥開始時は40℃以下（毎時乾減率が0.5%~0.6%程度）になるよう設定します。籾水分が25%未満になったら、通常の温度で乾燥（毎時乾減率が0.5%~0.8%）を行います。二段乾燥は「胴割れ」の発生を防止する重要な技術なため積極的に取り組みます。過乾燥も胴割れの発生を助長するため、玄米水分14.5%~15.0%で仕上げます。